

<目次>

【取組①-1】公表対応について(自治体への情報提供) ……P1~4

(参考)トラブル等発生時の自治体への通報連絡、ならびにマスコミへの公表

(参考)前回の福島評議会でご指摘のあった事案について

(参考)福島復興本社の体制強化について

【取組①-2】公表対応について(適時適切な公表) ……P5

皆さまの懸念を意識した情報発信について

【取組②】前向きな情報の発信について ……P6~8

視覚に訴える情報提供

【取組①—1】公表対応について(自治体への情報提供)

【主なご意見】 自治体への情報提供より報道が先行するケースがあるので改善すべき

【これまでの対応状況】

発電所のトラブル情報

自治体への通報連絡後、
通報連絡内容をもとに
報道関係者へ公表

【参考①】

廃炉の取組状況における重要な情報

訪問や通報連絡などを通じて、適宜、自治体に報告を実施

＜前回の福島評議会でご指摘のあった2つの事案＞

～ 廃炉の取組における重要な情報として、関係自治体には事前にその内容の説明を実施していたが、最終的な開始日時の情報は、「当社における最終判断等のタイミング」と「マスコミ報道等」との兼ね合いや、社内情報連絡の不備等により、公表や報道の前に情報提供が出来ていなかった。

【参考②】

ご指摘を踏まえた対応

発電所のトラブル情報

継続実施

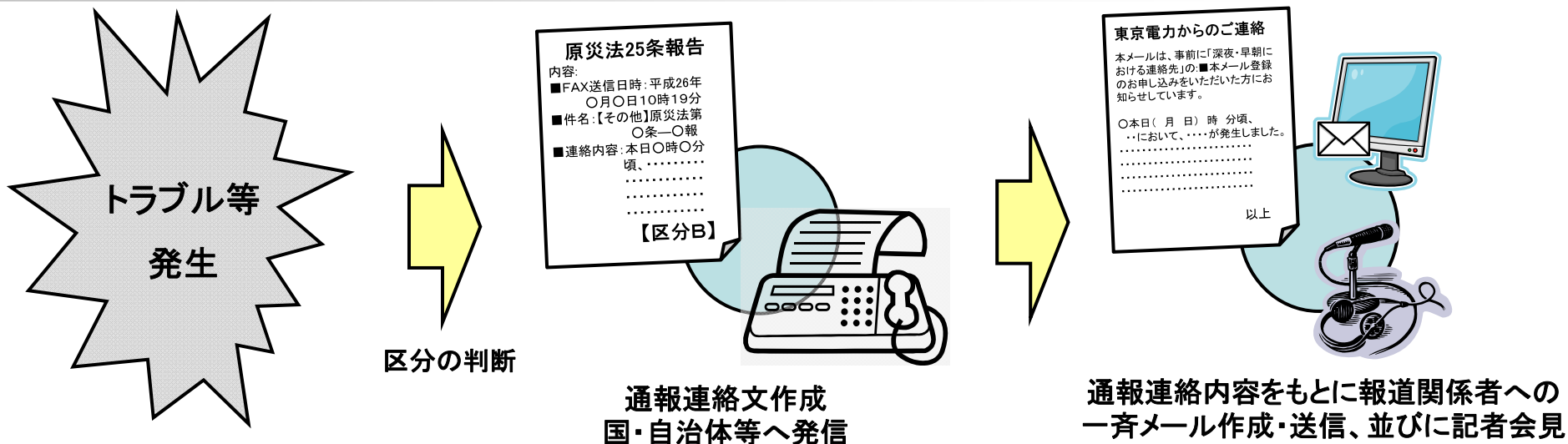
廃炉の取組状況における重要な情報

○社内連絡体制を強化した中で、報道が先行することのないよう、適切に関係自治体に説明していく。必要に応じ、当社における最終判断前でも、そのような状況であることを含め情報提供を行う。

○情報提供は、7月に実施した15地域(関係13市町村、中通り+会津、および東北)への責任者配置や地域対応要員の強化(福島専任のベテラン管理職の配置)の中で対応。

【参考③】

トラブル等発生時の通報連絡、公表の流れ



公表区分	考え方	地元自治体等への通報連絡	公表
区分A	<ul style="list-style-type: none"> ・冷温停止状態の維持に影響を与えるもの ・周辺環境への影響が考えられるもの ・重大な人身災害(大量な放射線被ばくなど) 		<u>通報後</u> 、30分以内を目安に報道関係者へ一斉メールで公表し、緊急記者会見で説明
区分B	<ul style="list-style-type: none"> ・冷温停止状態の維持に影響を与える可能性があるもの ・周辺環境への影響の可能性が排除できないもの ・社会的に重大な関心があるもの 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・発生確認後または判断後、30分以内を目安に通報実施 	<u>通報後</u> 、30分以内を目安に報道関係者へ一斉メールで公表し、定例会見で説明 必要に応じ臨時会見を実施
区分C	<ul style="list-style-type: none"> ・発電所施設運営に軽度な影響を与えるもの ・社会的に大きな関心のあるもの 等 	<p><適宜、続報></p> <ul style="list-style-type: none"> ・応急処置実施内容、実施時期 ・応急措置実施後(実施した場合) ・復旧時 等 	<u>通報後</u> 、30分以内を目安に報道関係者へ一斉メールで公表し、定例会見で説明
区分D	<ul style="list-style-type: none"> ・発電所施設運営に軽度な影響を与えるもの ・社会的に関心のあるもの 等 		<u>通報後</u> 、定例会見で説明 必要に応じ報道関係者へ一斉メール
区分E	<ul style="list-style-type: none"> ・発電所施設運営に係る設備のごく軽度な故障 ・計画作業、操作 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業・操作の事前に通報実施 ・開始、計画変更、終了時 等 	<u>通報後</u> 、定例会見で説明

高
↑
重要度
↓
低

事例1

4号機燃料取出し作業「開始」

～ マスコミが燃料取出しの開始日時に関心を持つ中、作業開始予定について、社内情報連絡の不備があり、当社の報道発表(会見説明)が、自治体への通報連絡より先行した。

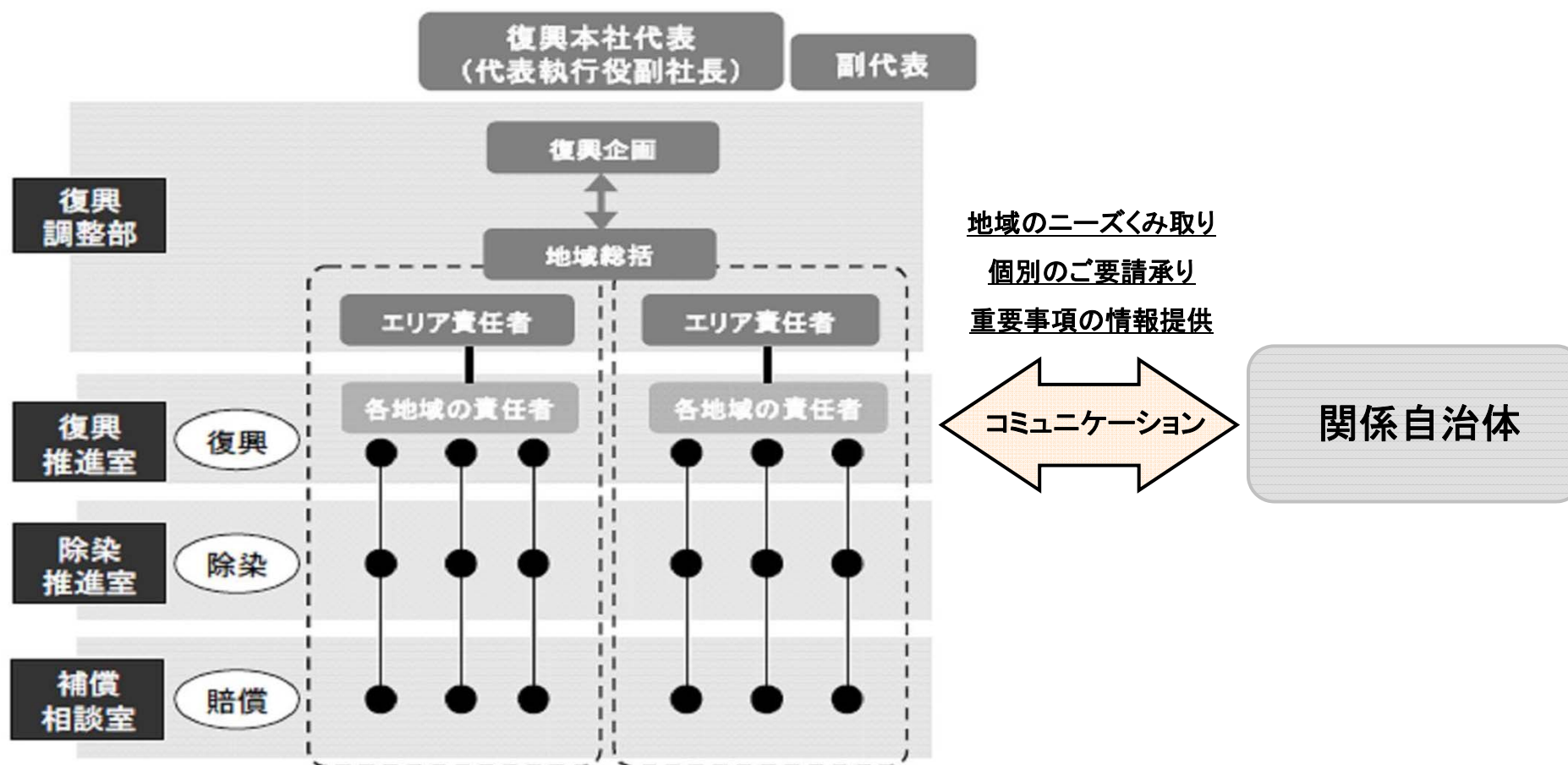
25/11/15 17:00頃 11/18からの4号機燃料取出し開始について社内最終決定
17:30～ 定例記者会見で、11/18から4号機燃料取出しを開始する予定であることを説明
17:57 自治体への通報連絡（「11/18から4号機燃料取出しを開始する予定」）
18:00台 各局がニュース報道（「4号機の燃料取出しは18日から」）

事例2

地下水バイパス「開始」

～ 「福島県廃炉安全監視協議会」での地下水バイパス了承をもって、各局は開始日等を報道。当社は、同協議会での審議内容を社内関係部署で確認した後、自治体への通報連絡を実施。結果してマスコミ報道後の情報提供になった。

26/ 5/20 13:15～17:20頃 福島県廃炉安全監視協議会（地下水バイパス放出が議論され、了承された）
18:00台 協議会での了承をもって各局が報道（「地下水バイパス、明日海放出へ」）
19:04 自治体への通報連絡（「5/21より順次海洋への放出を開始予定」）



自治体などからの各種ご要請に一体的に対応するため、7月1日付で復興推進室に15地域の責任者を配置し、賠償・除染・復興等の専門スタッフと復興調整部に配置したエリア責任者が部門横断で連携できる体制を構築

【主なご意見】トラブルの影響や収束見通しなど、適時適切な情報提供を行うべき

【取組例】事実関係に加え、みなさまの“ご心配・ご不安”の低減に繋がる情報を、適宜発信。

● みなさまの懸念を意識した情報発信について

トラブル発生時、影響範囲や復旧見通しなど、懸念の低減に繋がる情報を付加して随時公表
※ ご指摘を踏まえ、できるだけ早く、みなさまがご安心いただける情報を加えて公表するよう、工夫している。

(事例1) 26/7/12 構内の体育館付近に置いてある車両からの油漏れについて

(みなさまのご心配は…) → 海洋への影響について、ご心配されるのでは。

【報道発表(一斉メール)への記載内容】<抜粋>

- …漏えい範囲は、敷鉄板上を中心に、約1.5m×約2mであり…吸着マットにて処置しています…
- …海から離れた場所における漏えいのため、海洋流出の可能性はありません…

(事例2) 26/7/19 5号機原子炉建屋5階オペレーティングフロアにおける水溜まりの発見について

(みなさまのご心配は…) → 燃料プール冷却浄化系の弁付近で水溜まりが発見されたことによって、プールの冷却ができなくなるのではないかと。また、冷却再開までの時間は、どれくらいの見込みなのか？

【報道発表(一斉メール)への記載内容】<抜粋>

- …5号機については…炉心冷却と使用済燃料プール冷却を交互に実施…現在は、炉心冷却を行っており…
- …本日(7月19日)午前5時現在の使用済燃料プールの温度は25.2℃で、65℃(運転上の制限)に達するには、8日程度(0.192℃/h)余裕があります…今後…使用済燃料プールの冷却再開を7月20日までに予定しております…

【取組②】前向きな情報の発信について

【主なご意見】4号機燃料取り出しや地下水バイパスなどの前向き情報も発信すべき。

【取組例】①7月25日に当社ホームページの一部リニューアル(廃炉特設ページの新設等)の実施

● 当社トップページ



● 廃炉特設ページ新設



【お客さまからの声】

ホームページが改訂されており、大変わかりやすくなった。

【記者より】

毎日のように東京電力のホームページを見ているが、廃炉に関する内容が整理され、大変わかりやすくなった。

【取組例】②グラフィックスや画像を用いて可視化し、取組概要や進捗状況を分かりやすく表現。

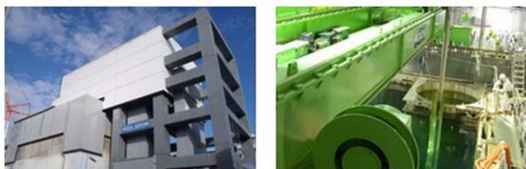
視覚に訴える情報提供(ホームページの公表方法)

○福島第一4号機からの燃料取り出し

福島第一原子力発電所4号機からの燃料取り出し

4号機の使用済燃料プール内の燃料ラックに保管されている燃料集合体を取り出し、敷地内の共用プールへ移送して集中的に保管します。

この燃料取り出し作業は2013年11月18日より開始し、完了は2014年末頃を目指します。



4号機から共用プールへ移送状況



移送済み燃料(個) 1188/1533

移送燃料の種類(使用済:1166体/1331体、新燃料:22体/202体)
キャスクの輸送回数 54回

更新日:2014年7月10日

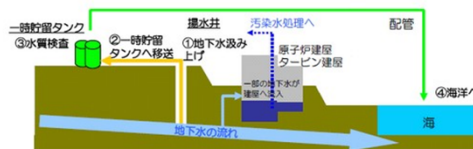
※天井クレーンの年次点検のため、7月1日より8月上旬にかけて燃料取り出し作業を中断しております。

※新燃料の放射能は小さく、人の手で取り扱うことが可能なレベルです。

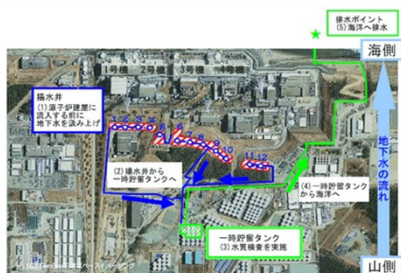
燃料移送状況を定期的に更新。移送前後の量を視覚的に表示。

○地下水バイパスの取り組み

- 発電所構内の地下水が原子炉建屋に流入する前に山側で地下水を汲み上げ、その流れを変えて地下水水位を下げることで、原子炉建屋への流入量を減少させるのが「地下水バイパス」の取り組みです。
- 山側で汲み上げた水は一旦タンクに貯留し(①、②)、「運用目標を満たしているか」の分析を、当社および第三者機関で実施します(③)。
- また、タンクに貯留した水は、その水質が運用目標未達であることを確認し(④)、海側に排水します(⑤)。(運用目標を超える地下水の排水は行いません。)



地下水バイパスの運用状況



一時貯留タンクの運用方法

- ・タンクは1〜3グループの系列からなり、各グループ10基(合計30基)のタンクで運用します。
- ・貯留→分析→排水のサイクルで運用します。



地下水のくみ上げから排水までの流れを、模式図や構内図面を使って可視化。

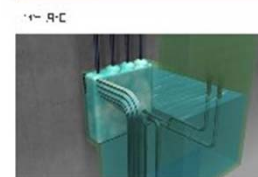
○動画解説 福島第一の状況について

動画解説 福島第一原子力発電所の状況について

解説: 原子力発電所の現状と今後の対応について、最新の状況をお知らせします。

汚染水への取り組み〜トレンチ凍結止水工事・降側止水壁工事の進い

2014年6月5日 掲載



再生ポイント 0:20:47

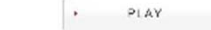


福島第一原子力発電所 ロボットを活用した安定化・廃材作業

2014年6月30日 掲載



再生ポイント 0:20:27



福島第一に関するポイントについて動画解説することにより、より視覚的に表現。

【主なご意見】テレビニュースや新聞報道で使われている3DやCGなどは、厳密ではないかもしれないが、重要なものに絞ってあり分かりやすい。コンテンツ作成時に参考にしてほしい。

【取組例】3DやCG等を取り入れ、訴求ポイントを絞った分かりやすい動画等を作成していきます。

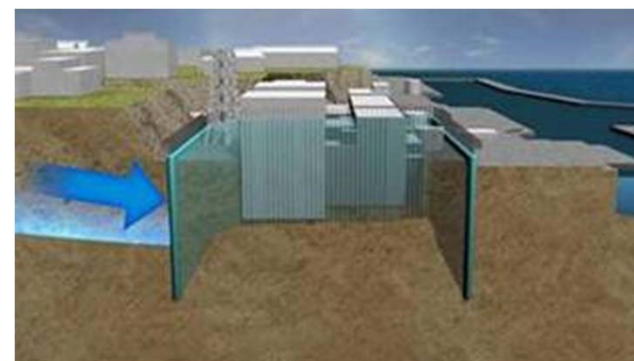
● 視覚に訴える情報提供(3DやCGを取り入れた動画の事例)



鳥瞰図



平面図



断面図

本日の福島評議会でも一例として、

今後実施する“サブドレン・海側遮水壁の対策”をテーマにした動画を用意させて頂きましたのでご視聴いただき、ご意見・ご感想をよろしくお願いいたします。